

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成23年12月)

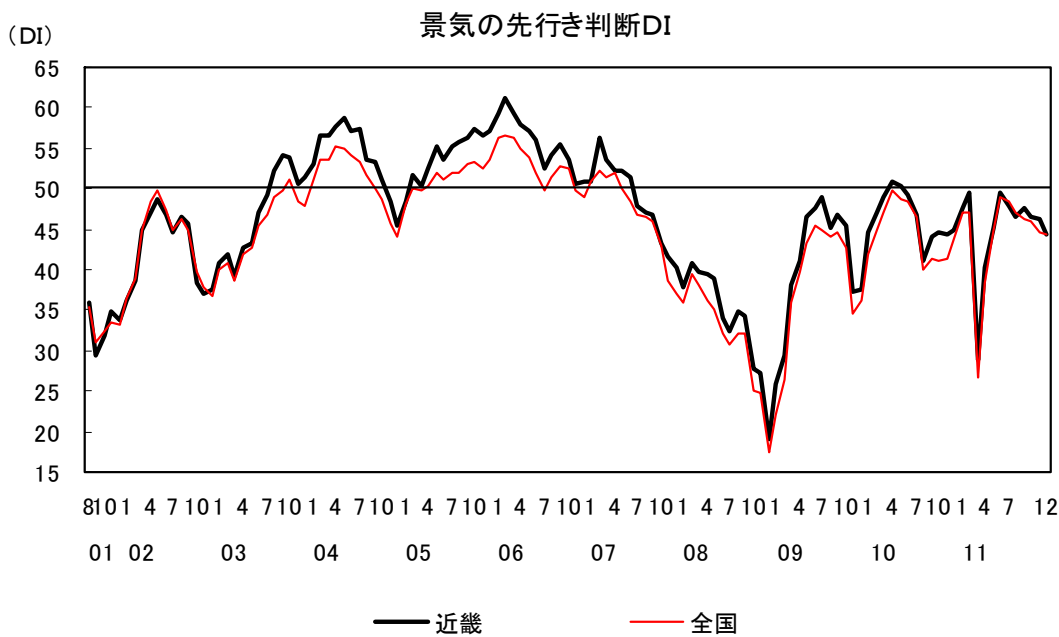
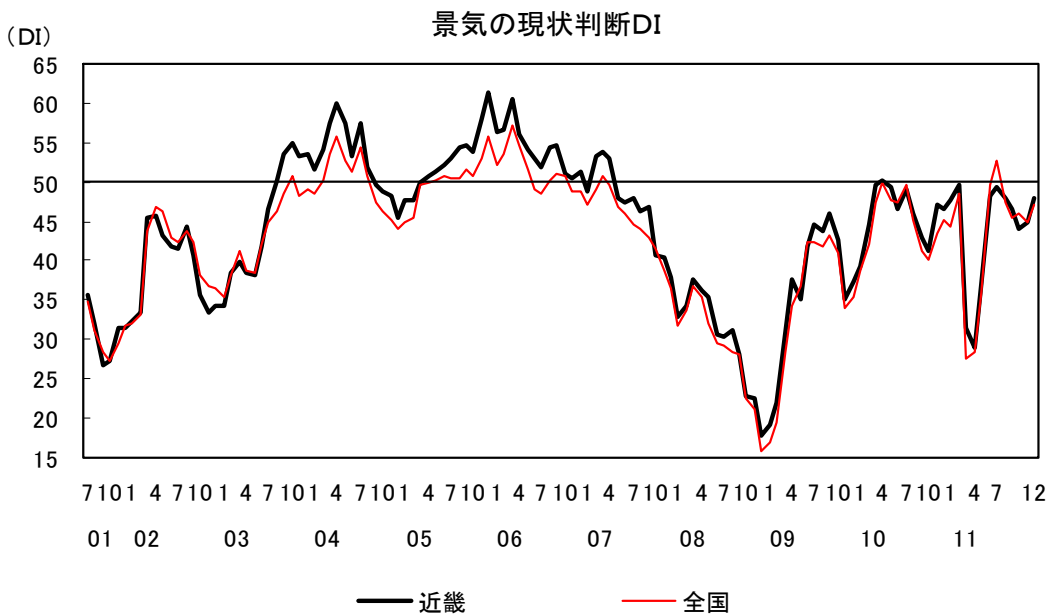
～現状判断は上昇が続くも、増税懸念等で先行き判断は続落～

- 景気ウォッチャー調査・12月調査の近畿地域の結果（現状判断[方向性]）は、2ヶ月連続の上昇となった一方、先行き判断は3ヶ月連続の低下となった。全国も同じく、現状は上昇、先行きは低下となっている。
- 現状判断については、クリスマスおよび年末商戦の好調が上昇に大きく寄与したほか、月下旬にかけての気温の低下による季節商品の好調、節電・省エネ関連商品の好調などが上昇要因に挙げられる。
- 特にクリスマス・年末商戦は、日ごろの節約の反動もあって消費が増えやすいという近年の傾向に加え、今年は家族や友人と過ごすための需要—いわゆる絆消費が増え、来客数や客単価が好調に推移している。
- 一方で先行きについては、消費税率の引上げ議論の本格化、円高や株安の継続、欧州の信用不安などが、引き続き消費マインドの低下につながっている。特に、消費税率の引上げに対する不安の声は、スーパーをはじめとする身の回り品関連の業種で多く、実際の引上げ時期はまだ先とはいえ、導入が決まることによる消費マインドの悪化が懸念されている。
- 今冬の節電については、今のところ景気への大きな影響はみられないが、2月に向けて電力不足が強まっていく点に注意が必要であろう。特に、2月の気温は低めとなる予報も出ているため、電力需要が予想を上回る事態もありうるとみられる。

◎スーパーに多くみられる「消費税率の引上げ」への懸念(先行き判断)

変わらない	スーパー（経営者）	・増税問題や欧州の信用不安といった暗い話題が多いため、消費意欲は悪化に向かう。
	スーパー（店長）	・円高の継続や欧州の信用不安、消費税率の引上げ問題など、消費マインドが悪化する要素は非常に多い。景気が足踏みするなか、店舗間の競争は激しさを増すため、来客数の増加や客単価の上昇は困難である。
	スーパー（店長）	・年末年始での出費の反動や、消費税率の引上げ関連の報道などで、消費の冷え込みが心配される。
	スーパー（経理担当）	・年末や正月ぐらいはぜひいたくしたいという動きの反動で、再び節約ムードが強まる。消費税率の引上げや年金制度の見直しに関する議論の活発化に伴い、消費マインドも悪化する。
	スーパー（広報担当）	・消費税率の引上げ議論などで将来不安が高まり、消費マインドに悪影響を及ぼす可能性がある一方、プラスの要素は見当たらない。
やや悪くなる	スーパー（管理担当）	・消費税率の引上げが決まれば、導入前といえども悪影響が出てくる。
	スーパー（開発担当）	・賞金の増加が望めないなか、今後は消費が冷え込む。消費税率の引上げ議論も本格化するため、景気は良くならない。
	スーパー（企画）	・年明け以降も景気が回復する要素は全く見当たらない。消費を喚起するような政策も予定されていないほか、近い将来には消費税率の引上げといった不安要素もあるため、当分は厳しい状況となる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 09 10 11																								
		月 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12																								
現 状 判 断	近畿	37.3	39.4	44.6	49.5	50.2	49.4	46.7	49.1	46.1	42.8	41.2	47.0	46.7	47.8	49.6	31.5	28.9	37.2	48.2	49.3	48.1	46.5	44.1	44.9	48.0
	(全国)	35.4	38.8	42.1	47.4	49.8	47.7	47.5	49.8	45.1	41.2	40.2	43.6	45.1	44.3	48.4	27.7	28.3	36.0	49.6	52.6	47.3	45.3	45.9	45.0	47.0
先 行 き 判 断	近畿	37.6	44.7	47.2	48.9	50.9	50.2	49.2	46.8	41.2	44.2	44.5	44.3	45.0	47.6	49.5	28.8	40.2	45.2	49.4	48.0	46.4	47.5	46.6	46.3	44.4
	(全国)	36.3	41.9	44.8	47.0	49.9	48.7	48.3	46.6	40.0	41.4	41.1	41.4	43.9	47.2	47.2	26.6	38.4	44.9	49.0	48.5	47.1	46.4	45.9	44.7	44.4